



石田会長が池田常務理事にプルタブを手渡しました

TOPIC 4 プルタブを車いすに交換

7/28 身体障害者福祉協会プルタブ寄贈

釧路地区身体障害者福祉協会白糠分会（石田正義会長）はプルタブ14キを社会福祉協議会に寄贈しました。寄贈式は保健センターで行われ、石田会長のほか木村忠治副会長、濱野則子事務局長の3人が出席。石田会長がプルタブを社会福祉協議会の池田浩樹常務理事に手渡しました。石田会長は「車いすが必要な方のために役立てばと思ひ、会員以外の方からも協力をいただき集めました。収集は今後も継続していきたい」と話していました。

TOPIC 1 刺しゅうを通してアイヌの伝統を学ぶ

7/20 アイヌ文様刺しゅう講座

全10回の講座で「ひぎ掛け」や「コースター」など身近なものにアイヌ文様を施す「アイヌ文様刺しゅう講座」がウレシパチセで開かれました。この日は9回目の講座で17人が参加。参加者は、アイヌ文化保存会メンバーの指導の下、魔よけの意味がある文様（アイウシシリキ）を刺しゅうしました。ひぎ掛けに刺しゅうした田中真理さんは「アイヌ文様は曲がりが多くて難しいのですが、回数を重ねるうちに慣れてきて楽しくできました」と話していました。



アドバイスを受けながら刺しゅうに取り組む参加者（左）

TOPIC 5 水産資源の確保目指す

7/29 ヤマトシジミ増養殖実証実験

町と漁協青年部、町おこしエネルギーは、和天別川下流付近でヤマトシジミ増養殖実証実験を始めました。この日は、熊本県小国町でシジミ養殖の経験がある町おこしエネルギーの松田あずきさんが、産卵の準備や放卵の確認をしました。実験にはパシクル沼の成貝を使用。放精放卵した翌週に漁協青年部がパシクル沼などに放流し、成長を見守ります。約10日間のサイクルで数回に渡って放流。成貝になるまでは3～4年かかる見込みです。



地下水（左）とパシクル沼の水（右）を使って実験



「わっしょい、わっしょい」の掛け声をあげて海中を何度も往復

TOPIC 2 荒波をものともしない白糠名物「海中みこし」

7/23 厳島神社例大祭「海中みこし」

白糠厳島神社例大祭の最終日、漁業の発展と安全操業を祈願する「海中みこし」が海辺を練り歩きました。この日は、午前中にみこしパレードが商店街で行われ、午後2時頃に前浜に到着。約400キのみこしを担ぎながら、打ち寄せる荒波に向かって突進しました。荒波をものともしない勇壮な姿を披露し、大勢の見物客を楽しませました。その後、神社の社殿まで76段の階段を一気にかけてあげると、見物客から歓声と拍手がわき起こりました。



平和を祈念し献花をする遺族会の会員

TOPIC 6 冥福を祈り恒久平和願う

8/3 殉公者追悼式

殉公者追悼式がやまびこ会館で開かれ、遺族や関係者など約40人が先の大戦で犠牲になった戦没者をしのぶとともに、平和への誓いを新たにしました。式では、棚野孝夫町長が「悲惨な戦争が実在したことを子々孫々に伝えていかなければならない」と式辞を述べ、続いて参列者全員が献花をしました。遺族会の中河敏史会長は「罪のない一般市民まで巻き込まれる戦争の悲惨さと恐怖、平和の尊さとありがたみを万世に渡り語り続けます」と誓いました。

TOPIC 3 子育てをもっと楽しんで

7/24 子育て講演会

町は、子育て支援の一環として「子育て講演会」を保健センターで開催しました。講演会には12人が参加。くしろせんもん学校の田仲京子先生が「笑顔になる子育て」と題して、子育てのポイントを話しました。田仲先生は「イヤイヤ期は、子どもに選択させることが大事で、子どもが選んだものは否定しないことが重要」と説明。そのうえで「子どもに選ばせる場面をたくさん作ってあげたら、自分で決断するようになるので、子育ても楽になってくる」と話していました。



「子育ては失敗して当たり前。完璧じゃなくていい」と話す田仲先生